

2023年3月期 第3四半期 決算説明資料



General Oyster

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)

2023年2月14日



1. 2023年3月期 第3四半期 決算トピックス



1 売上高は、前年同期比大幅な増収となり、営業利益は「黒字化」を達成

売上高は2,845百万円（前年同期比54.2%増）となり、コロナ前（2020年3月期）を上回る。営業利益は黒字転換（92百万円）し、第3四半期としては、上場後の最高益を達成。

2 「店舗事業」は、既存店の収益改善が進み、3Q累計で上場後最高益を達成

売上高は、前年同期比41.8%増と大きく回復したが、コロナ前の水準には戻らない状況。セグメント利益は、既存店の収益改善が進み、第3四半期として上場後の最高益311百万円を達成。

3 「卸売事業」は、高付加価値戦略により、3Q累計で上場後の最高売上

安心・安全の高付加価値戦略が評価され、取引先数の増加により、上場後の最高売上を達成。セグメント利益は、前年比98.6%増加と大幅に回復し、80百万円を確保。

連結損益計算書概要

売上高は2,845百万円（前年同期比54.2%増）と大きく回復し、コロナ前（2020年3月期）を上回る。営業利益は92百万円となり、第3四半期（累計）としては上場後の最高益を達成。

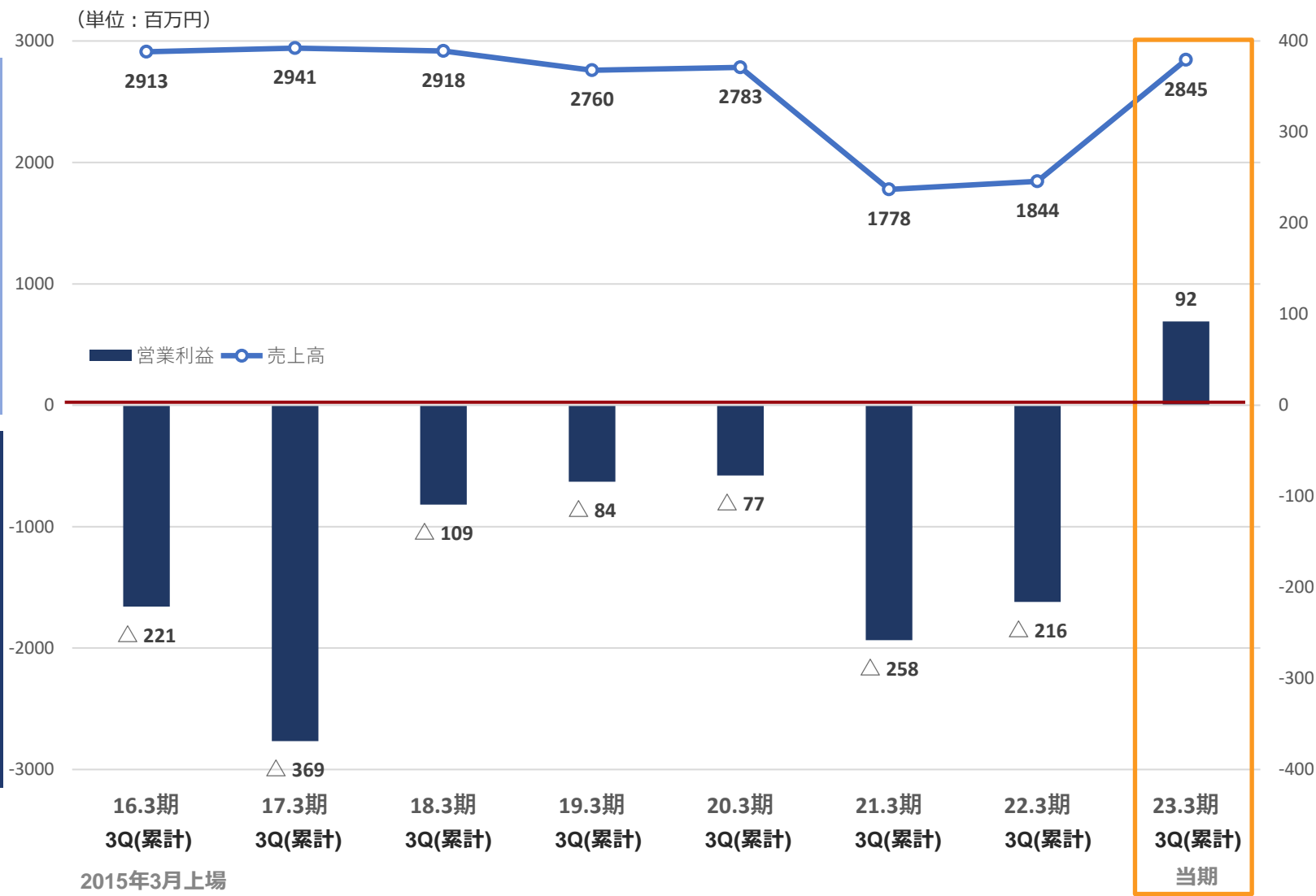
	2020年3月期 第3四半期（累計） （参考・コロナ前）		2022年3月期 第3四半期（累計）		2023年3月期 第3四半期（累計 見込）		前年同期比 （%）	
	実績 （百万円）	構成比 （%）	実績 （百万円）	構成比 （%）	実績 （百万円）	構成比 （%）		
売上高	2,783	100.0	1,844	100.0	2,845 ①	100.0	+1,000 (+54.2%)	① コロナ前を上回る
売上原価	958	34.4	667	36.1	1,081	37.9	+415 (+62.3%)	
売上総利益	1,825	65.5	1,177	63.8	1,763	61.9	+585 (+49.7%)	
販売管理費	1,902	68.3	1,394	75.5	1,671	58.7	+276 (+19.8%)	
営業利益（△）	△77	-2.7	△216	-11.7	92 ②	3.2	+308	② 黒字転換
経常利益（△）	△84	-3.0	△219	-11.8	92	3.2	+311	
特別利益	-		526	28.5	11 ③	0.3	-514	③ 協力金等の補助金 収入の大幅減少
特別損失	-				13	0.4	+10	
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△59	-2.1	258	13.9	95	3.3	-163	

連結業績について

安心・安全の高付加価値戦略により、第3四半期として上場後の最高益（92百万円）を達成。

売上高
28.45
億円

営業利益
92
百万円
上場以来
最高益



2015年3月上場

連結貸借対照表概要

純資産 978百万円（自己資本率:40.9%）を確保。
引き続き収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

(百万円)	2022年3月期 期末	2023年3月期 第3四半期	(百万円)	2022年3月期 期末	2023年3月期 第3四半期
資産の部			負債の部		
流動資産	1,560	1,635	流動負債	467	528
現金及び預金	1,272	1,215	買掛金	93	162
売掛金	183	322	短期借入金 ^{*1}	54	66
たな卸資産	30	61	その他	320	300
未収入金	59	-	固定負債	927	874
その他	13	13	長期借入金	522	471
固定資産	733	745	その他	405	403
有形固定資産	518	528	負債合計	1,394	1,403
無形固定資産	0	0	純資産の部		
投資その他資産	215	217	株主資本	879	974
敷金及び保証金	215	217	その他	19	4
繰延資産	0	0	純資産合計	898	978
資産合計	2,293	2,381	負債純資産合計	2,293	2,381

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

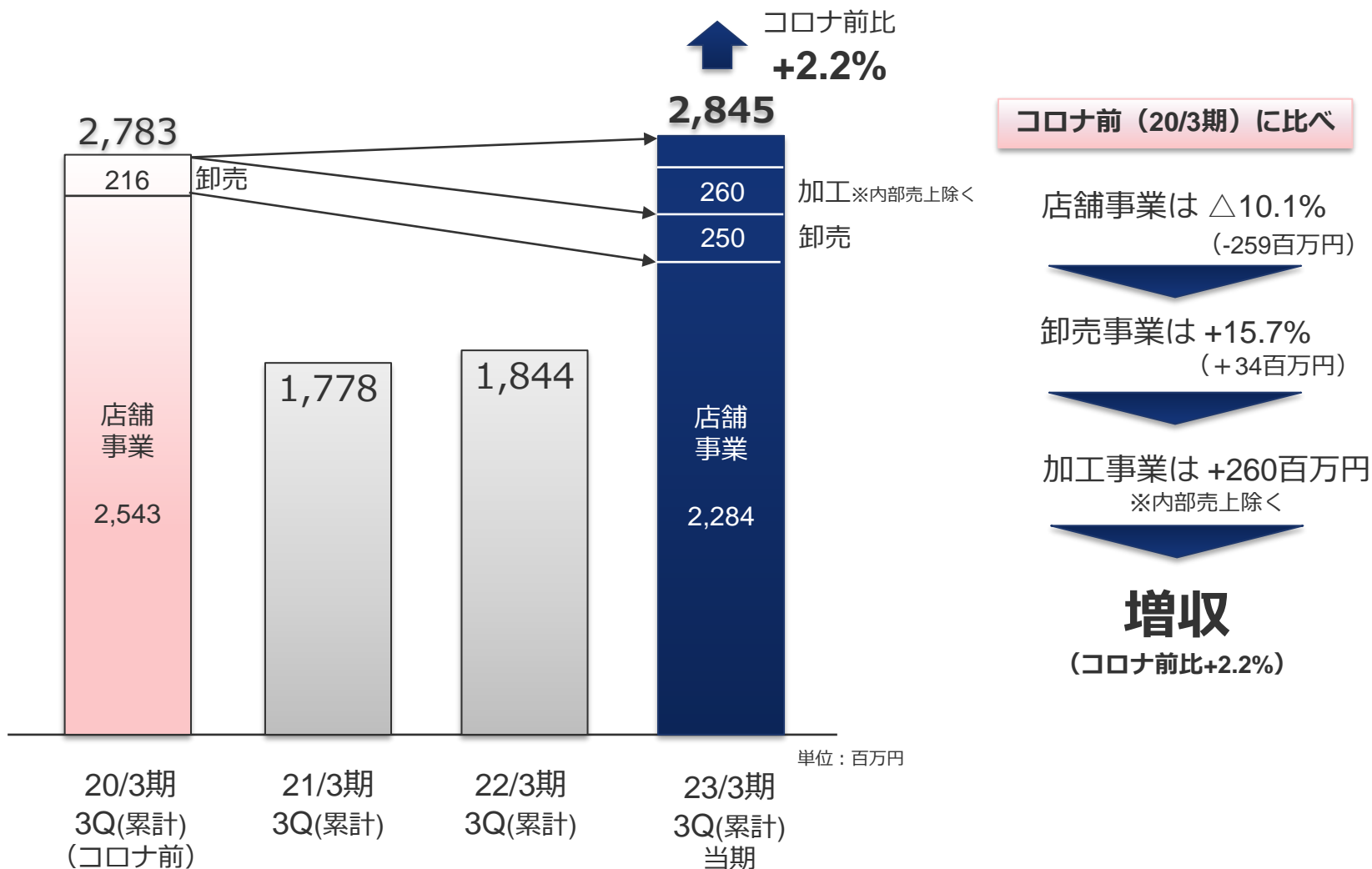
セグメント別業績概況

「店舗事業」、「加工事業」、「卸売事業」の全セグメントで、売上・利益が大幅に改善。

(百万円)		2022年3月期 第3四半期(累計)	2023年3月期 第3四半期(累計)	前年同期差額	前年同期比 (%)	ポイント
店舗事業 オイスターパーレス トランでの飲食サー ビス	売上高	1,610	2,284	+673	+41.8	売上高が大幅に回復したことに加え、筋肉質な収益体質が定着しており、大幅な増収増益を達成
	セグメント利益	30	311	+281	+920.0	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加 工品の外販卸売り	売上高	120	250	+129	+107.7	安心安全の高付加価値戦略により、卸売先も拡大し、売上、利益とも前年から大幅に増加
	セグメント利益	40	80	+40	+98.6	
加工事業 岩手・大槌工場	売上高	82	266	+187	+222.0	阪和興業との受託事業の拡大により、売上・損益が改善。
	セグメント損失	△31	△21	+9	—	
その他 EC通販、海外卸売	売上高	39	51	+12	+30.8	
	セグメント利益	6	0.1	-6	-97.2	
調整額	売上高	△8	△6	+2	—	
	セグメント利益	△263	△278	-15	—	
連結財務諸表 計上額	売上高	1,844	2,845	+1001	+54.2	
	営業利益	△216	92	+308	—	

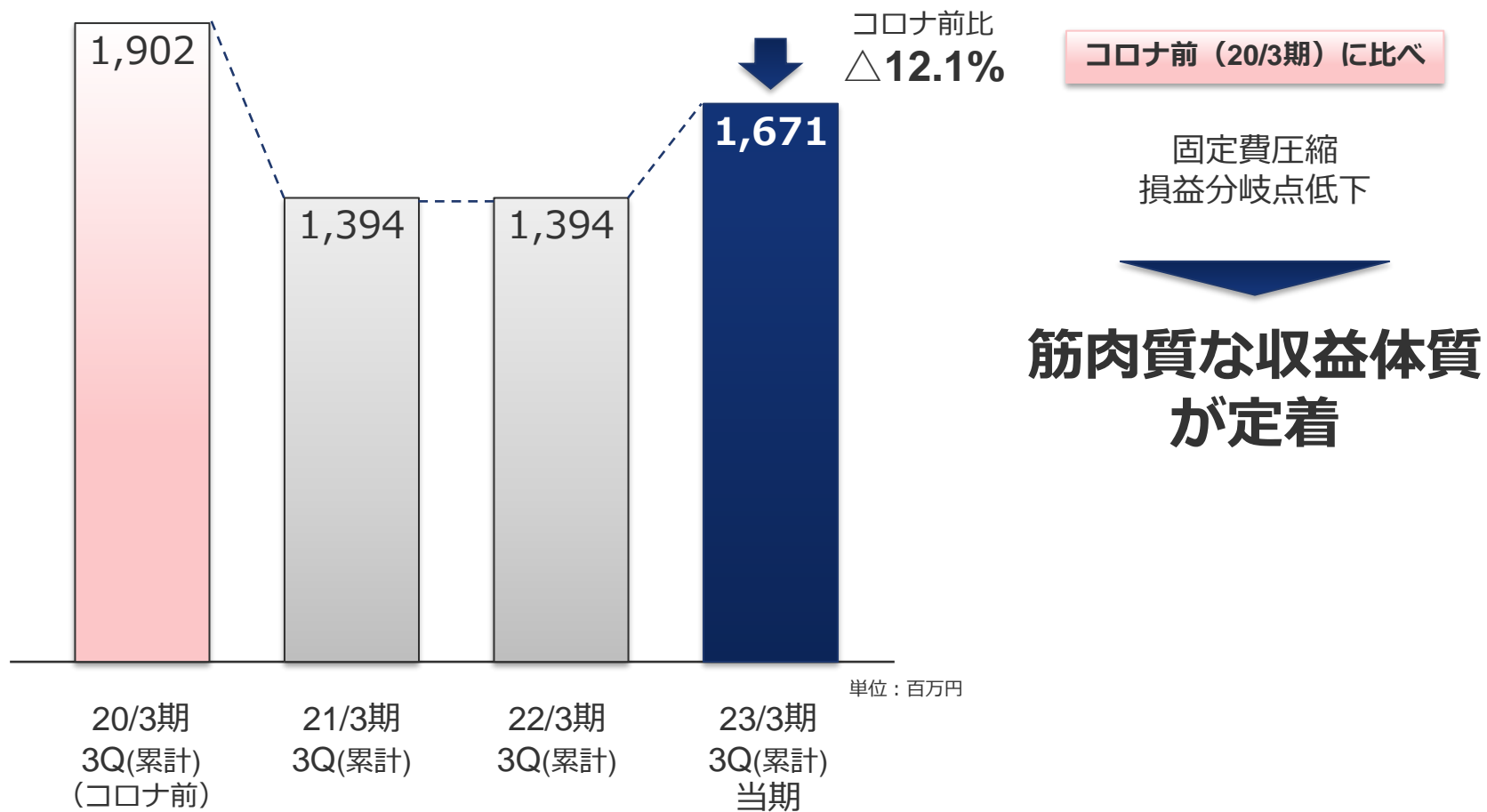
コロナ前との業績比較① 【連結売上高】

店舗事業は、まん延防止措置が解除され通常営業になったことに伴い、売上高は回復。
加工の受託事業を開始し、卸売事業がコロナ前から15.7%増となり、売上高全体ではコロナ前を上回る。



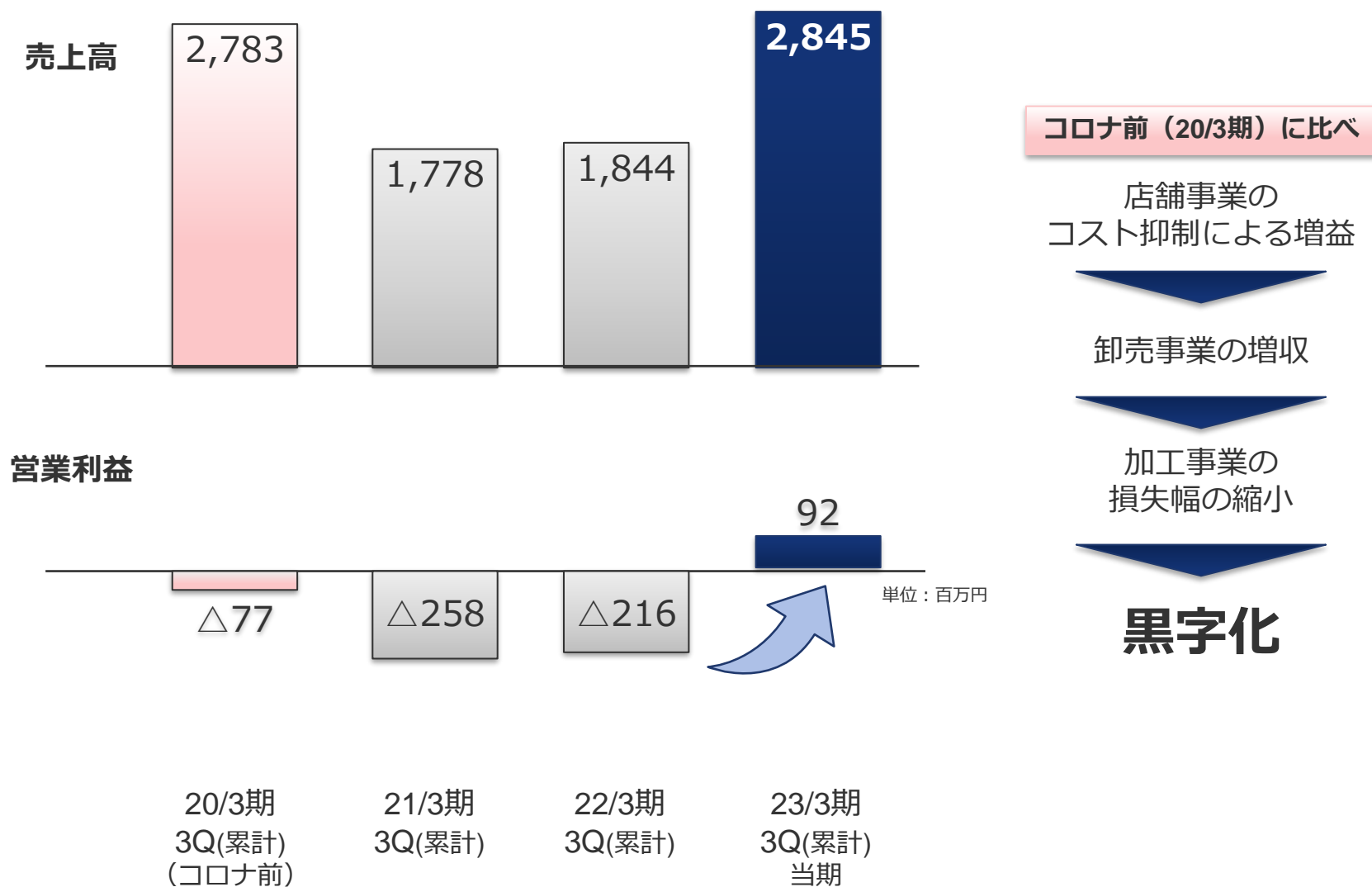
コロナ前との業績比較② 販売管理費

グループ全体で、固定費を大幅に圧縮、コロナ禍を経て筋肉質な収益体質が定着。



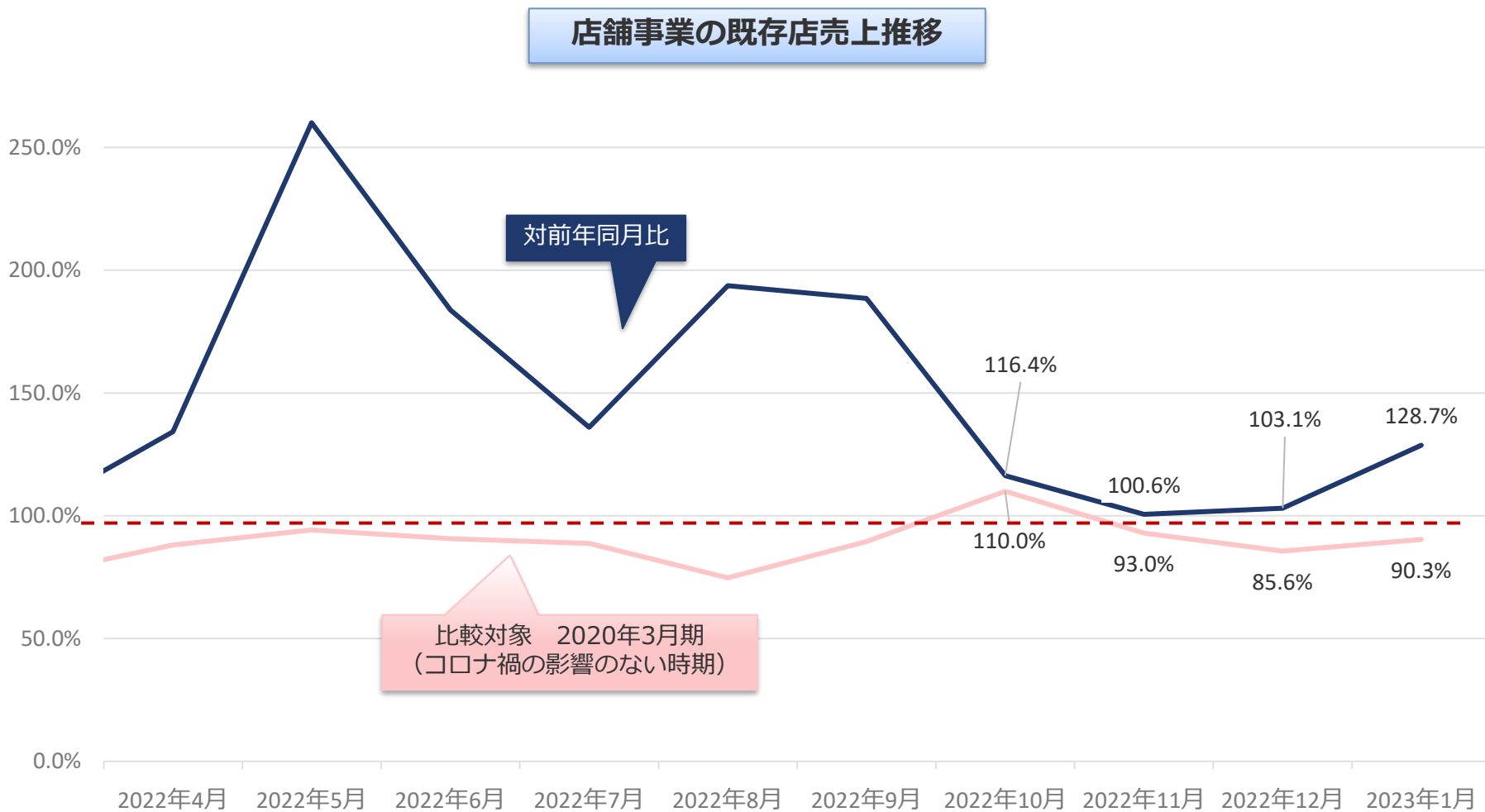
コロナ前との業績比較③ 営業利益

高付加価値戦略と筋肉質な収益体質の定着により、営業黒字に転換。



【店舗事業】 既存店売上高（前年比、コロナ前比）

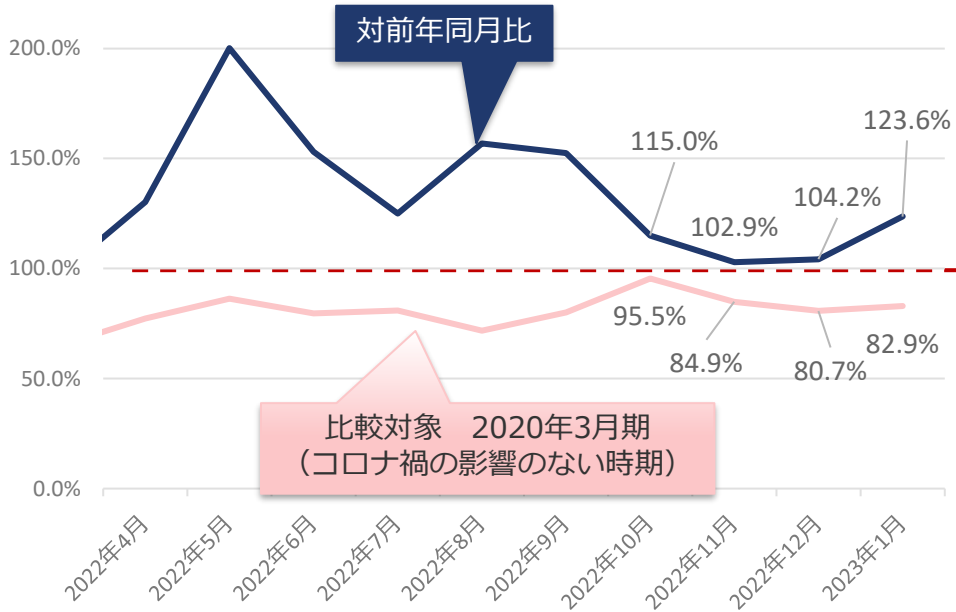
まん延防止措置が解除され通常営業になったことに伴い売上高はコロナ前と比較して、やや下回るが、安定的に推移



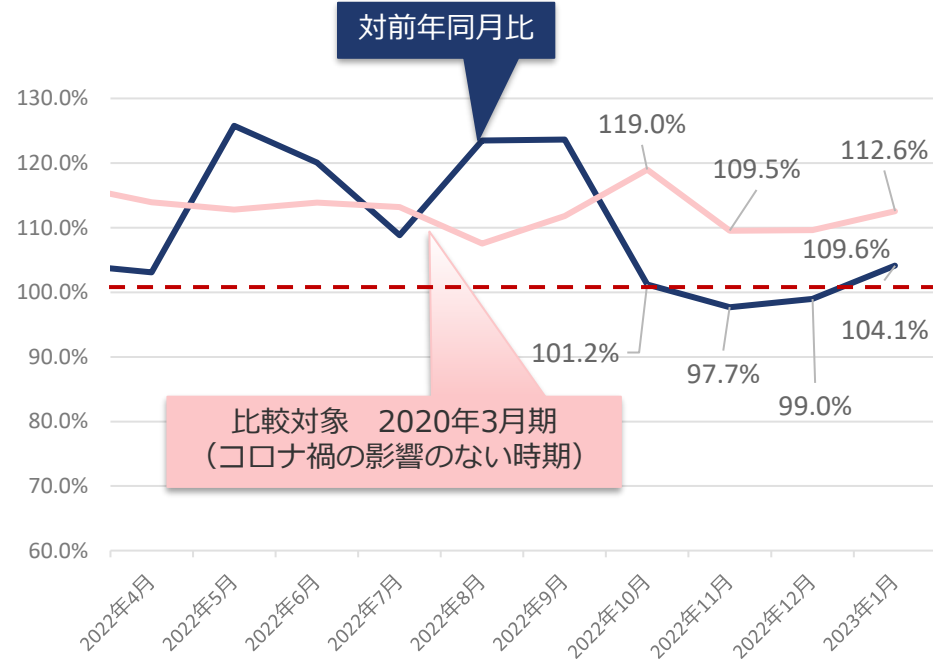
【店舗事業】 既存店客数・客単価（前年比、コロナ前比）

客数は回復傾向にあるものの、商業施設の営業時間の短縮などもあり、コロナ前の水準には戻らない状況。一方、客単価は10%超の増加（コロナ前比）が断続的に継続しており、高付加価値戦略が定着化。

客数の推移



客単価の推移



【卸売事業】 売上実績推移と対前年比、対コロナ前比

安心・安全の高付加価値戦略が評価され、取引先数の増加により、売上が拡大。
2022年3月以降、コロナ前比で10%超の伸びを断続的に継続。



2. 今後の取り組みについて



2023年3月期のコロナ禍の経営戦略の見込み

コロナ禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
コロナ禍で継続する『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	◎	引き続き、推進
再成長に向けた『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など販売チャネルの多角化	◎	引き続き、推進
	店舗事業の収益拡大	◎	少ない売上でも利益を出せる筋肉質なコスト構造への転換が完了。今後も更なる定着化を進める。
	国内卸売事業の収益拡大	○	取引先が拡大傾向、更なる取引高拡大を図る。
	海外輸出事業の収益拡大	△	海外（特に、台湾・香港市場）におけるコロナ禍の状況次第
	加工事業による収益貢献	○	品質の安定と稼働の改善を進める。
	店舗事業のITを活用しての効率化	○	引き続き、推進
	陸上養殖のアタラナイ牡蠣のローンチ	○	実証実験が進み、今年中にお披露目予定

3. 2023年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

現時点では通期業績の合理的な見積りが困難なため、2023年3月期の連結業績予想は「未定」とし、今後見通しが立った時点で速やかに公表させていただきます。

(百万円)	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	2,539	未定	-
営業利益	▲283		-
経常利益	▲288		-
当期純利益	287		-

※新型コロナウイルスの影響の見通しが立たず、現時点での業績予想は「未定」とさせていただきます。



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。